



道程

西東京市立ひばりが丘中学校

第3学年

第9号

令和7年5月27日発行

運動会まであと5日！！

5月は中間考査、修学旅行、運動会と次から次へと忙しい日々を過ごしています。26日には、中間考査の成績表を配りましたので、おうちでもしっかり振り返りをして、今月中に学校に持ってくるようにしてください。週末には運動会が控えていて、練習も大変ですが、体調を整えて乗り越えていきましょう。

今回はA組の修学旅行の作文を紹介します。



「修学旅行で得られた学び」

A組

二泊三日の修学旅行が終わって家に帰ると、今までに感じたことのないほどの疲れが押し寄せてきた。だけど、それと同時に「やりきったなあ」などの達成感も強く感じた。修学旅行は二つある学校の宿泊行事のうちの一つで、三年生の行事の中でも一番と言っていいほど大きな行事だ。だから、この行事が終わったら三年生の残りの楽しみがぐんと減るような気がして、前日、まだ修学旅行に行きたくないとも感じていた。そのため、修学旅行から帰った時に、そういう寂しさの気持ちが一つもなかったことには、自分でも驚いた。なぜだろうと考えたときに、それは自分がこれほどなく楽しんだからだという事に気がついた。

新幹線で向かうときは、友だちや先生とトランプをしたし、変な遊びもして盛り上がった。飛鳥村の景色はすごくきれいで、ひと呼吸することによって気持ちがすっきりした。ご飯だってすごく美味しかったし、寝る前も班の友だちと沢山笑った。歴史のある建物も沢山見て、沢山目で学んで、沢山お土産も買った。

もちろんハプニングも沢山あった。雨でぜんぜん駅に着かなくて、特急に乗っている間に食べるご飯を買う時間がないと気づいた時は絶望したし、本部に電話をかける時も、すごく心苦しかった。これからどうなっていくんだろうと何度も思った。だけどその時はいつも班員の方がカバーしてくれたり、意見をくれたりしてすごく嬉しかった。

今回の修学旅行で、私は本当の「楽しい行事」はどんなものなのか、少しだけ理解できたかもしれないと思った。それぞれの欲を単に満たすだけでなく、壁を共に対処して、乗り越えることで得られた達成感こそが楽しさにつながるのかもしれない。この二泊三日は、私にとってとても大切なことを教えてくれたような気がする。

「楽しかった三日間」

A 組

この三日間は色々なことがあり、色々なことを学び、楽しみました。

一日目、僕は初めての新幹線に乗り、初めての関西、奈良と京都に向かいました。僕は最初から初めてのことで、とてもワクワクしました。その後、民家ステイでお世話になるホストファミリーさんと見学場所を巡り、お家に向かいました。ホストファミリーさんのお家はお寺で、初めて鐘を突かせてもらったり、ご飯を一緒に作ったり、とても良い体験をさせていただきました。

二日目は班行動でちゃんとこなせるか心配な気持ちでした。でも班員みんなで協力して、計画通りに進めることができました。奈良公園では、動物園では味わえないような鹿との距離だったり、東大寺では今まで見た中で一番でかい大仏に圧倒されました。宿泊する宿でのご飯はとても美味しくてお腹いっぱいになるまで食べました。

三日目は修学旅行ラストの日、タクシー運転手さんと色々なところに行きました。タクシー運転手さんは優しく親切でさらに知識豊富で、通る道やその場所の知識をたくさん教えてくれました。

この三日間は楽しいことばかりで幸せな時間でした。初めての関西、一つ分かったのが、関西の人はみんな優しく親切だということ。だから外国人も多く、人気だということが分かりました。この三日間はとても楽しかったです。

